

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400642		
法人名	サッポロ・ライフケ株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家琴似		
所在地	札幌市西区八軒3条東2丁目2番12号		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0170400642-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの笑顔がたくさん見られるように、コロナ禍ではあるが感染予防を意識して、外気浴や散歩に出掛けている。また、楽しめるような企画を積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム虹の家琴似」は、JR八軒駅や琴似駅、バス停にも近く、交通の利便性に恵まれた静かな住宅地に立地している。出窓に面した明るい居間を中心に台所や居室が配置された造りで、ひな人形や絵画、利用者の作品などが飾られており、家庭的な温もりが感じられる。感染症流行の中でも近隣を散歩したり、近くの公園で花見を楽しむなど積極的に外気に触れている。利用者と一緒にプランターでトマト栽培や収穫も楽しんでいる。運営推進会議は書面で開催しているが、事業所報告に関する意見や感想を構成メンバーから聞き取り、議事録に記載して再度送付するなど工夫した取り組みを行っている。災害対策は、昼夜の火災や水害を想定した訓練を毎年実施し、一時避難場所として近隣の喫茶店と協力体制を築いている。食事面では、季節や行事に合わせて手巻き寿司や筍ごはん、寿司の出前やパンバイキングなどを取り入れて食事が楽しめるように工夫している。入浴は希望に応じて回数を増やしたり、見守りでゆっくり楽しんでもらうなど、個々に応じて柔軟な対応を行っている。全職員で利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その方のできることを継続できるような支援を行っている。これらの取り組みの結果、家族の信頼も得ている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームから見える場所に掲示し、朝の申し送り時に唱和して、共有し実践している。	運営理念とケア理念を事業所内に掲示し、申し送りで運営理念を唱和している。採用面接でも伝えている。運営理念とケア理念に掲げている利用者の尊厳を大切にケアを行っているが、地域密着型サービスの意義について意識する機会はない。	地域の一員としての生活を意識できるような、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の介護理念や目標を作成するよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴や散歩時に挨拶を交わしている。また、除雪作業等を協力して行っている。	町内会から災害備蓄食の寄付を受けて試食を行い、事業所の備蓄品リストに活かしている。利用者と散歩をしながら近隣のごみ拾いをしたり、除雪を一緒にしている。感染症収束後は、地域行事への参加を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながらホームの見学を受け入れている。また、他の介護サービスの説明や提案もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を書面で開催し、行事や利用者の状況等を報告し、構成員の方々より評価、助言等を、電話や書面で頂きサービス向上に活かしている。	会議は、事業所の報告を中心に書面開催している。議事録を確認して、地域包括支援センター職員や町内会役員、家族から感想や感謝の言葉が寄せられている。意見や感想を記入して、構成員に再度議事録を送っている。	会議案内にテーマを記載したり役立つ情報資料などを添付し、参加できない家族の意見や質問を事前に聞き取り会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の生活保護担当者と連絡を取り協力関係を築けるようにしている。	市役所への請求や申請などは本部が行っている。管理者は、おむつサービスや介護度の区分変更申請、介護保険の更新などで区役所を訪れている。運営推進会議で、地域包括支援センター職員と情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化に向けた指針を策定し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを作成し、年2回勉強会を行っている。身体拘束ゼロ推進委員会を2か月ごとに開催している。玄関の鍵は日中も施錠しているが、利用者が出かけようとした時は職員も一緒に戸外に出て、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の指針を策定し虐待防止に努めている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら外部研修などに参加できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後も不安や疑問があれば何度でも説明させて頂き、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や家族来訪時に近況報告等を行い、意見や要望を伺っている。	来訪時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、連絡ノートや個人記録に記入している。家族の意見や要望を継続して共有できるように、見やすい記録方法を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や会議時に意見、提案を聞き反映させている。今年度は2階の共有スペースにエアコンを設置した。	管理者は、会議や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞き取っている。職員の提案で、今年度から利用者の担当職員を決めたり、業務の流れなどを変更している。年2回、職員と個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の他に夏季、冬季休暇を3日ずつ取得できるようにしている。また、年末年始に勤務した職員には手当を支給し環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら外部研修などに参加できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら交流を深めて、サービスの向上に役立てていきたい。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えにしっかりと耳を傾け、信頼関係を構築できるように努めている。また、訴えることが苦手な方には隣に寄り添う等している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の段階から、家族の不安や要望に耳を傾け、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から話を伺い、必要としている支援を見極めるように努めている。また、他介護のサービスの利用が望ましい場合なども助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に協力して清掃等を行っている。また、レクリエーションや季節の行事を一緒に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やご家族来訪時等に普段の様子を報告している。また、ご家族と一緒に病院受診している方も多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会という形にとらわれず電話で話すことができるように支援している。地域の理容店で散髪している方もおられる。	知人や友人と交流している利用者はほとんどいないが、親族からハガキや手紙が届く利用者もあり、職員はお礼の電話連絡などを支援している。本人の希望で近隣の理容室に出かけている利用者もいる。受診の帰りに自宅に行き、窓越しに家族と会って来た利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通して他者と楽しい時間を共有して頂けるように努めている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法要の際にお花やお菓子を送ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動などから希望、意向の把握に努め本人本位の生活が送れるようにしている。本人の希望で麻雀などのレクリエーションも行っている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。利用開始時に趣味や嗜好、暮らしの習慣などを聞き取っている。今後は利用開始後の趣味や嗜好などの変化を書面に記載する意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を伺い生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残したり、連絡ノートに記載したりして利用者の状態を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は本人や家族から意見を伺い、反映できるように努めている。また、職員の申し送り時等に意見交換を行い反映させている。	計画作成担当者が職員の意見を聞き取り、6か月ごとに評価を行い介護計画を作成している。変化があればその都度も見直している。計画目標に沿って、支援内容や利用者の変化、課題などを日々の記録に残しているとは言えない。	計画目標に沿って、支援内容や利用者の変化、課題などを日々の記録に残し、評価や介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に実践・結果を記載し気づきや工夫を個人記録に記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望等に応じて散歩や外気浴が出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望で買い物や近隣の理容室に行けるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療により体調管理している。また、体調に変化があった場合は報告し指示を頂いている。他科受診が希望も対応している。	全利用者が協力医療機関の訪問診療を受けている。専門医を受診する時は、利用者の状況に応じて事業所の職員が同行している。家族と受診する時は必要に応じて書面で様子を伝えている。受診記録は個別に記入している。	

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護時に様子を報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には担当医にかかりつけ医、当施設から情報提供をしている。また、早期退院ができるように病院関係者、家族と情報交換や相談に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し、入居時に本人や家族に説明し意思を確認している。また、いつでも変更できることも説明している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」と「看取りに関する指針」に沿って事業所の方針を説明し、看取りの意向も確認している。体調変化に応じてその都度主治医と家族、事業所で話し合い、希望に応じて看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し全ての職員が対応できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害を想定した避難訓練を定期的に行っている。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練と水害想定訓練を行っている。2月は消防署の協力を得た避難訓練を予定している。感染症流行のため、職員の救命講習は受講できていない。地震時の危険箇所の確認については不十分な面もある。	感染症の収束状況を見ながら、職員の救命講習の受講を計画的に進めるよう期待したい。また、地震時の危険箇所を確認し、ケア別の個別対応についても話し合うよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念を意識し尊厳と人格を尊重する対応をしている。	呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、身体拘束の勉強会で言葉遣いなどを学んでいる。申し送りは利用者には聞こえないように行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望によりパンを提供するなど食事のメニューを変更している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重し過ぎて頂けるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。また、希望により近所の理容店で散髪している利用者もいる。			

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮し調理法を変更したり、盛り付けや食器拭き等も一緒に行っている。また、利用者の希望により主食をパンに変更して提供している。	食材会社による献立を基本に、時には寿司の出前やパンバイキング、筍ごはんなどに変更している。利用者ができる範囲で下拵えや食器拭きなどを手伝い、職員も一緒に同じ食事を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の希望により炭酸飲料、コーヒーやスポーツドリンクなどを提供している。また、食事が減っている方には経腸栄養剤を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に合わせてスポンジを使用したり、定期的に訪問歯科受診をしている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め声掛けトイレ誘導している。	誘導や介助の必要な利用者は排泄、排便の記録を行っている。自立している利用者はわかる範囲で排泄状況を記録している。誘導の際は羞恥心に配慮し、小声で声かけしている。できるだけトイレで排泄できるよう適切な誘導や介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操等の運動とオリゴ糖の摂取を組み合わせ便秘予防に取り組んでいる。状況に応じて下剤も使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は週2回午前中の中の入浴だが、希望により入浴回数の増減や午後からの入浴に対応している。また、入浴が困難な利用者はシャワー浴対応としている。	土曜日を予備日としているが毎日入浴可能で、概ね午前の時間帯に各利用者が週2～4回の入浴をしている。入浴剤を使ったり、職員と会話して入浴を楽しんでいる。同性介助の希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣などに合わせ自室で休息を取れるようにしている。また、本人の様子から休憩を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表を作成し理解できるようにしている。特に薬剤変更の場合は服用後の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニトマトの苗植え、チューリップの球根植え等を行って頂いている。また、ぬり絵、麻雀やトランプなどができるように支援している。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により外出はできていないが日常的に散歩や外気浴を行っている。	日常的に近所の公園や住宅街を散歩しており、車いす利用者も一緒に出かけている。外気浴や雪かき、野菜の栽培や収穫をする利用者もいる。また、受診で外出する機会もある。感染症が収束したら、以前のように花見や外食に出かけたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームで管理しているが本人の希望で購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話できるように支援している。また、家族から届いた手紙は本人に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グッピーの飼育、花や観葉植物を育てており家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるようにしている。また、季節感のある塗り絵をして頂き飾っている。	建物全体が家庭的な造りで、台所や事務所スペースが居間に面し、利用者を見守りしやすい。6つの居室がある2階へはエレベータで上がることができる。絵画や利用者の作品、ひな人形などを見やすい場所に飾っている。麻雀、花札、ビンゴゲームなどの遊び道具を用意し、利用者が気軽に楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで一人テレビを観たり、テーブル席で談笑したり、歌を歌ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に自身で作ったジグソーパズルやちぎり絵を飾ったり、家族からのプレゼントを飾ったりして心地よく過ごして頂いている。	部屋には備え付けのクローゼットとベッドがあり、利用者が自由にテレビやタンス、戸棚などを持ち込んでいる。壁にカレンダーやちぎり絵作品、ジグソーパズルなどを飾り、本人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下には手すりが付いていて安全に移動できるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム虹の家琴似

作成日：令和 5年 3月 7日

市町村受理日：令和 5年 3月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	コロナ禍の為救命講習の受講が出来ていない。また、地震発生時の訓練が不十分だった。	緊急時に適切な救命活動が行える。 地震発生時に適切かつ迅速に避難誘導ができる。	感染症の状況を見ながら定期的な救命講習の受講し救命方法等の再確認。 地震発生時を想定し危険箇所の確認、ケア別の個別対応方法の検討。	1年
2	26	利用者の変化や課題等を伝える際に口頭のみの場合があった。	利用者の変化や課題等は確実に記録に残す。	毎日使用している介護記録に変化や課題等を確実に記録する。	6カ月
3	1	地域の一員として生活していることを意識する機会がなかった。	利用者、職員が地域の一員であることを意識して地域と関わりを持つ。	地域の一員であることを意識した目標の作成。	3カ月
4	4	運営推進会議の内容が事業所からの行事報告がメインだった。	運営推進会議の内容を充実させる。	感染症の状況を見ながら通常開催を目指し、行事報告以外にも役立つ情報等を発信する。	6カ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。